

「苦しみを喜びとする」 コロサイ 1:24-29

使徒パウロが獄中から、他でもなく、行ったこともないコロサイ教会宛てに、聖霊によって手紙を書いています。

コロサイ 1:24-29

- 24 今、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。(この始まり、いかがでしょうか。)
私は、キリストのからだ、すなわち教会のために、自分の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。
- 25 私は神から委ねられた務めにしがって、教会に仕える者となりました。あなたがたに神のことばを、
- 26 すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところなく伝えるためです。
- 27 この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。
- 28 私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えています。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるためです。
- 29 このために、私は自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

一緒に祈りましょう。私たちが理解できるように、神に祝福をお願いしましょう。

愛する天のお父様、私たちは感謝しきれません。

あなたの御言葉に対して、また今朝の御言葉の中のこの聖句に対して、感謝してもしきれません。

感謝するのは本当に不可能です。

でも、私たちは主に切に求めます。

聖霊が私たちを集中させ、注意力を保って下さらないと、私たちの思考はさまよい、気が散ってしまいます。

そうすると、あなたが今日用意して下さったことを見逃してしまいます。

ですから主よ、どうか私たちの思考を静まらせ、心を落ち着かせて下さい。

そうすれば私たちは、あなたの御言葉から受け取ることができます。

主よ、語りかけて下さい。しもべは聞いています。

イエスの御名によって。アーメン。

では、「苦しみを喜びとする」についてお話したいと思います。

パウロが 24 節で言っている「苦しみを喜びとする」

これは、「言うは易く、行は難し」の 1 つでしょう。同意して下さいますか。

特にその苦しみが自分自身のためでなく、他の誰かのためである時。

これが、ここでパウロが実際に言っている事だと分かりますね。

彼が言っているのは、24 あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。

「そうなんですか?」 そうなんです。

聞いて下さい。

こと苦しみに関して、私の葛藤は、それを喜びとすることです。

仮に「キリストの体として、教会として、皆さんのための苦しみを喜びとせよ」と言われ、それを求められるなら…それは必ずしも簡単な事ではありません。

これを言ったからと、見下されないことを願いますが。

パウロは、「彼ら、教会というキリストの体のために受ける苦しみを喜びとしている」と言っているのです。

皆さんが私と同じなら、皆さんそうだと思いますが、この腐敗した世の中で苦しみは付きものです。

しかし、苦しみを喜ぶこと、キリストのために苦しみを本当に喜ぶことは、また別の話です。
私の疑問は、「なぜ」、そして恐らくもっと大切なのは「どうやって」、パウロと同じように、クリスチャンとして本当に苦しみを喜びにすることができるのか。
感謝なことに、使徒パウロは私たちのために、今日の聖書箇所の中でこの疑問に答えています。

初めに、「なぜ」に対する答えが 25 節。

コロサイ 1:25

私は神から委ねられた務めにしがたって、教会に仕える者となりました。あなたがたに神のことばを、パウロが言っているのは、「私はしもべ。命令、言わば召命に束縛されている奴隷だ。神から委ねられた務めに従って、神の言葉を余すところなく伝えるために召されているのだ。」

それから、26 節から 28 節でそれを説明しています。

コロサイ 1:26-28

- 26 すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところなく伝えるためです。
- 27 この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。
- 28 私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えます。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるためです。

隠されていた、秘められていた奥義。神がユダヤ人と共に異邦人を救うという奥義。

皆さん、嬉しくないですか。私は嬉しいです。

今日ここに、ユダヤ人、もしくはユダヤ系の方はおられますか？ 手を上げて下さい。

2人・・・3人目はおられませんか？

この教会の礼拝に、ユダヤ系の方がお二人。ということは、残りの私たちは異邦人。そうです。

これを尋ねてもきっと問題ないと思いますが、私のようなアラブ系の方はおられますか？

あなた、本当に？ 後でお話しましょう！ 先週お会いしましたよね。2週間前でしたか。

ユダヤ人でない人は、誰でもみな異邦人です。

神がユダヤ人と共に異邦人を救う。

これは隠され、秘められて来た奥義でしたが、それが今、明かされたのです。

エペソ 3:6

それは（この奥義とは）、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の（イスラエルの）相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。

これを一緒に考えましょう。

パウロはこの奥義のために召されました。

イエス・キリストの救いをもたらすために、異邦人に福音を伝えるという偉大な召命。

私たちに命じられているこの偉大な宣教命令は、「なぜ、キリストのゆえに苦しみを喜びにすることができるのか」という疑問について説明していないでしょうか。

私がこの結論に至った経緯を話します。

「奴隷には権利がない。そして奴隷は辞められない。」“Slaves have no rights and slaves can't quit” というのを聞いたことがあります。この事を少し考えてみましょう。

パウロは、「『異邦人もユダヤ人と共に救われる』という素晴らしい奥義を明らかにすることを成し遂げる」という自分の偉大な使命を知っていました。

それには代価が伴うので、犠牲を予測する事は非常に重要です。主に仕える人々は特に。

私がミニストリーを始めたばかり、牧師になったばかりの頃、最も難しく、本当に勉強になった事の1つは、会社の世界から出たこと。

私には自分のビジネスがあり、基本的には私が全てを仕切っていたので、自分がすべきだと思う事、必要だと考える事を優先的に行っていました。

人を雇ったり、クビにしたり、自分が辞任したり、昇進したり、基本的には私が望む事を何でもしました。私が経営者だったから。

その後、自分のビジネスを売却してミニストリーを始めたのですが、突然ショックを受けました。

“もしも”ではなく、ミニストリーが大変になる“時”は、必ず辞めたくなる傾向があるからです。

自慢しているのではありません。率直にこれをお話ししなければならないのです。

初めの頃は何度もそういう事がありました。本土にいた時の事ですから、そんな目で見ないで下さい。

駆け出しの牧師の頃、「何と大変なのか。」「元の仕事に戻りたい。ペテロのように漁師に。」

私は漁師ではないけれど、神は人を取る獵師にするために私を召されました。

だけど、物事が大変になると逃げ出したくなり、そして辞めようとしたのです。

私の牧師が私に話してくれたのですが、それは本当に適切なメッセージで、「JD、ただ1つの問題は、奴隷は辞められないんだよ。」

「ああ、そうだ。私は束縛されている奴隷、イエス・キリストのしもべ。主によって召され、主に仕えているんだ。召命に伴うのは、キリストのための苦しみなんだ。」

この苦しみは召命とセットになっている。

これが「なぜ」の説明です。

次に「どうやって」の答えは29節。注目して下さい。

コロサイ 1:29

このために、私は自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

パウロが言っている意味が分かりますか。彼は聖霊の力を言っているのです。

これが「どうやって」です。

しもべとして召される事に伴う苦しみを、どうやって喜びにできるのか。それは聖霊によって。

こんな言葉があります。

「私たちを力づける聖霊が、御言葉を行わせる。」

かなりうまく説明出来ました。主よ、ありがとうございます。

私はクリスチャンになりたての頃、自分自身の肉の力で、クリスチャンとして生きようとしていました。

そして、失敗だらけ。自分の力で何とかしようとしていたから。それは大惨事のレシピです。

きよく生きるための唯一の方法は、ただ聖霊の力によって、だけ。

ですから、「もし試練や困難が来るなら」ではなく「試練や困難が来る」時、私たちの内なる聖霊の力は…

先週考えていたのですが、イエス・キリストの信者、従う者、神の御霊でポーンアゲインした者として、自分の中に、全能の神が実際におられる事に気づいていますか。

私たちの中には聖霊が住まわれているのです。

だから私たちがどこへ行こうと、何をしようと、何に出くわそうと、直面しようと、どんな困難でも試練でも、私たちには聖霊がいて下さる。

神の聖霊が私たちの中に住んでおられるので、言わば制限なしに、その力に繋がっているのです。

原語のギリシャ語ではデュナミス、英語のダイナマイトの語源。

神に召された事を行うために、この力を無制限に得ることができるのです。

「神の召命は、神が可能にして下さる。」“God’s calling is God’s enabling.” 聞いたことがあるでしょう。別の言い方では、「それがどれほどの苦しみや困難であっても、神は乗り越える力を与えずに召されることはない。」

神にはできません。それは神のご性質に矛盾するから。

そうでないと、神が私たちの不従順や、挫折、失敗の当事者になってしまいます。

神は私たちが仕えるように召し出されます。

その召命に伴って、私たちに行いの権能を与え、使命を果たすことができるようにされるのです。

なぜそれが重要なのか。

神の召しと苦しみはセット、召命には苦しみが伴うからです。

イエスは「わたしの弟子になりたいなら…」「わたしについて来たいなら…」と言われました。

ところでこれは、今日の教会で喜ばれるメッセージではありませんよ。

マタイ 16:24

だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分自身に、そして自分の全ての権利に死ななければならない。

「私はそれに同意してないよ。」多分それが問題です。

私はこの罪を犯さないように祈りますが、宣べ伝えられている福音は多くの場合、「キリストの下に来なさい。そうすれば、全ての問題は消え去ります。」♪Oh Happy Day♪

私は言いますよ。私がキリストに立ち返ったあの日、全く予想もしていませんでした。

「あれは、ただの始まりに過ぎなかった…」何が待ち受けていたか。

自分自身に死ぬというのは、全く面白くも何ともない!

「ものすごく苦しうに聞こえますが。」苦しいですよ!

だけど自分自身に死ぬことで、あなたはもうあなた自身のものではなく、代価を払って買い取られたのです。もう、あなたが仕切るのではない。

「あなたは今や、わたしのしもべだ。わたしの奴隷なのだ。」

強い言い方なのは分かっています。原語でデュロス、束縛された奴隷。

「これからはわたしに仕えるのです。あなたはわたしのために生きるのです。あなた自身のためではなく。」逆境が来る時（それは「もし来るなら」ではなくて、もれなく来ますよ）、私たちがそれに反応する中で、喜びは「自分自身に死ぬ」に比例するのです。分かりますか。

けれども問題があります。

それは、私たちが誤解することによって、更に間違って解釈してしまうこと。

そもそも、神はなぜ苦しみをお許しになるのか。

「私が苦しんでいるのは、きっと神の御心から外れてしまったんだ。」と思いがちです。

なぜなら、これは大変な苦痛で、ものすごい困難だから。或いは更に悪いことに…

私にとってすごく大きな、個人的な事を話すのを許して下さい。

私が育った家庭は、地上の父が非常に怒りに満ちた人でした。

だから父と私は、愛のある良い関係ではなかったのです。

彼はいつも私に怒っていたので、私は父を恐れ、常に父と距離を置くようにしていました。

それで天の父を、地上の父というレンズを通さずに見れるまでに長い時間がかかりました。

天の父は私に怒っていない。

天の父は全ての怒りと全ての憤りを、約 2000 年前にひとり子イエス・キリストの十字架に置いたのです。

その時、イエスが私の罪の代価を支払って下さった。

天の父はもう私に怒っていません。神は私を罰していません。

でも、最初に考えるのは殆ど初期設定のようで、逆境が襲い、苦難や困難で苦しむと、咄嗟に思うのは「神は私に怒っておられる。」

神はあなたに怒っていません。

サタンは「神はあなたに怒っている。罰しているんだ。」と思わせたいですよ。

そう思わせれば、あなたを神から遠ざけることができるのだから。

それがサタンの全戦略です。

私たちが一旦イエス・キリストの救いに辿り着くと、サタンは戦略を変えて来ます。

既にあなたは救われているので、サタンはあなたを主から引き離したいのです。

どうやるのか。

サタンはあなたを欺き、説き伏せて、「神は私を痛めつけようと待ち構えている」と考えさせようとします。といっても、私は主の懲罰の事を話しているのではないし、それを話すのも大嫌いです。

確かに神は、神の子供として私たちに訓練されます。

しかし私が言っているのは、あなたが試練の真っ只中にいる時、それは、あなたの人生のために、神の御心の真っ只中にある時でもあるという事です。

これが私たちが間違ってしまう事、言わば不必要に苦しんでしまう事なのです。

私たちは「困難のせいで、御心から外れている」と思ってしまいますよね。

間違っ**て**結論づけてしまうのです。順風満帆でないなら、御心の中にいないに違いないと。真逆が真実です。ガリラヤ湖の舟の中にいるイエスの弟子たち。

イエスは嵐が来るのを知りながら、弟子たちを舟に乗せました。

それで彼らは、生死にかかわる危険な嵐の真っ只中。だけど彼らは、神の御心の真っ只中。

では、なぜ神は苦しみを許すのか。

神は、私に用意していることのために、私を整えておられるから。

こう言われています。

「神は、まずあなたの内側で働いてからでなければ、あなたを通して働くことはできない。」

神はご自分があなたに備えている事のために、あなたを整える必要があるのです。

使徒パウロは「**あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。**」とすることができました。

心に留めて下さい。「備え/整え」

パウロがダマスカスに向かう途上で回心した後に経験したことです、主イエスご自身が教え、パウロに備えた事のために彼を整えました。3年間。

これが、彼が書くことができた理由です。

パウロはキリストのゆえに、福音のために、痛み、苦しみ、試練、困難、苦難の全てを（私はこれが全リストだとは思いませんが）、経験したのです。

それなのに、なぜ堅く立つことができたのか。神がそのために彼を整えたからです。

ところでこれは、どちらにもなり得ます。

神はヨセフを17年間整えました。

彼に用意した事のために、神はそうしなければならなかったのです。

すなわち、この世で最も力のある人になるために、ファラオを助けるために。

神はまず整える事をしないで、人をそのような地位に置いたりしません。

でないと、私たちは間違いなく失敗するから。

ヨセフは兄たちの裏切りを経験しなければなりませんでした。

奴隷として売られなければならず、強姦未遂の濡れ衣を着せられなければならなかった。

そのリストはまだまだ続きます。

地下牢に入れられ、死ぬように放置され、そして、時が満ちるまで忘れ去られていました。

「よし、ヨセフ、準備 OK だ！ 色々たくさん経験したね。」「はい、しました。」

「辛かったね。」「はい。辛かったです。」「あなたは本当に苦しんだ。」「はい、本当に。」

「私が行う事のために、今、あなたは準備ができている。私があなたの内でしたことを見てごらん。今、私はようやく、あなたを通してその働きをする事ができるんだよ。」

これが、パウロの成功の秘訣なのです。

ああ、メモになかった事を言ってしまいました。

私は世がハイジャックしてしまった事が大嫌いです。

アラブ人がハイジャックという言葉を使う事を許して下さい。

でも、成功の秘訣というフレーズを、この世がハイジャックしてしまった事が本当に憎い。なぜならハイジャックする事で、このフレーズを損ない、冒涇して、一般化してしまったから。これを神聖な神の領域から離して世俗的領域に置き、軽んじるから。それはサタンの的です。どの水準でも、どれだけ想像力を働かせても、使徒パウロは成功しました。

パウロの成功の秘訣は何だったのか。

その秘訣とは、神がパウロの内側でなされた事の全てです。

それは非常な痛みを伴うもので、彼は大変な苦しみを体験しました。

そのために、ヤコブはこう言うことができたのです。

ヤコブ 1:2 様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

あなたにはできます。それは可能です。

なぜならあなたは、神があなたの内で働かれる事を知っているから。

私が心配するのは、物事が上手くいき過ぎている時です。

本当に心配して案じるのは、悪魔が私をそっとしておく時。

もっと悪いのは、悪魔が妻に感謝状と花束を贈る時。そして言うのです。

「引き続き頑張って！ あなたは闇の王国に対して、全然脅威ではないから。本当にありがとう！」

別の言い方では「比例」

キリスト・イエスにある敬虔な生き方に比例して、迫害があり、苦しみがあり、痛みが、試練があります。だけど、それらは無駄ではありません。私たちの内に何かを生み出すから。忍耐や成熟。

そうして、私たちが試練を経験する時、必要な全てが備えられるのです。

以前にも何度も話しましたが、試練の際に必要な忍耐力を得る唯一の方法は、試練を経験する事です。

その忍耐力は、その試練の中で生み出されるから。他の方法はありません。

忍耐力を生み出すための別の方法があればと思いますが、試練を乗り越えるための忍耐力を養う唯一の道は、試練そのものなのです。

パウロはコロサイの人々に言った事を、ローマ人にも書きました。

ローマ 5:3-5

3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、

4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

私たちは苦しみを喜びとし、試練を栄光とするのです。

「知っている」これがキーワード。これが、誰か使徒パウロのような人が成功する秘訣。

同様に、今日ここにいる私たち一人ひとりにとってもそうです。

神がなさっている事、私の人生に生み出そうとしておられる事を**知っている**こと。

私を通して御心を成すために、神はまず私の内で働き、私を整えなければならないのです。

知っているのです。神が苦しみをもってどこへ向かわれるかを。それは無駄に終わりません。神は私の人生に、この忍耐力、神にかなった品性を建て上げておられるから。そして、その品性が希望を生み出します。

5 この希望は失望に終わることがありません。

なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。試練を通して、私たちの人生に。これはきっと、今日ここにいるどなたかのための言葉でしょう。

皆さんの大きな困難や試練の事を考えて下さい。もしかしたら今日、その真ただ中かもしれません。では、そこから少し引いて見て下さい。

違いに気づきましたか。

その試練のおかげで、その試練があなたを神に近づけたのでは？ 試練そのものが。

それがあなたを、他人に対して思いやり深くさせたのでは？

あなたの人生に不可欠な謙虚さをもたらしたのでは？

自分自身ではなく、へりくだって主に拠り頼む必要を認識したのでは？

皆さんも、自分がどんな人間か分かっているでしょうから。私は分かっています。

私たちはあまりにも自分を過信している。

何人かは自分の力が強すぎて、腕まくりをして言うのです。「私がやってみせるぞ!」

主は「OK! では、わたしが必要になったら知らせてくれ。」

これは逆境への道でしょう。

2つ質問して締めくくりたいと思います。

私を含め全員が、これに関してしっかり考えるべきだと思います。

質問①

神が苦しみを許すのは、もしかすると、あなたに深みを増し、あなたを強くし、あなたの中で働くためではないですか。神があなたを通して働くことができるように。

質問②

これは、もう少し受け入れ難いことだと思います。

その苦しみが、本当はあなたに関してではなく、あなたのためですらなく、代わりに他の誰かのためかもしれない。もしかするとイエスのためかも。

今朝ここに向かう途中、祈りながら主に言いました。

「主よ、あなたは私に驚くべき事をなさいました。それはいつも例外なく、大変な困難と苦しみの試練という形でやって来て、でも気づいたら、最後にはあなたに感謝しているのです。

困難そのものに対する感謝ではなく、困難と苦難を通してあなたがなされた事のゆえにです。

もう2度と経験したくありません。だけど私は、どんなものであっても、あなたが私にして下さった事や私の人生で成し遂げられた事と引き換えにしません。」

家から教会まで約22分かかります。善良な市民として、制限速度を守って運転しますから。

警察の方、おられますか？

それは私にとって最適な時間で、最も素晴らしい祈りの時間、主と私だけの時間です。

今日その時に主に言ったのは、「私は他の人のためには苦しみませんが、主のためになら多くの事を苦しみます。」

そう言って、祈って考えました。「オツと…」そうでしょ？

時折り、「自分が何を祈るか気をつけなさい」と言われますよね。

